

# 平成29年度 第2回地方独立行政法人京都市産業技術研究所

## 評価委員会 会議録

日 時：平成29年8月4日（金）午後1時30分～午後4時

場 所：キャンパスプラザ京都 2階 第1会議室

議 題：（1）平成28年度の財務諸表について  
（2）平成28年度の業務実績に関する評価について  
（3）中期目標の期間終了時の検討及び措置（案）について  
（4）第2期中期目標（案）について  
（5）今後のスケジュールについて

議事要旨：

### 【1 開 会】

- ・事務局からの挨拶等

### 【2 議 題】

#### （1）平成28年度の財務諸表について

- ・事務局から業務実績評価基本方針・実施要領について再確認を行った。
- ・委員長の説明

地方独立行政法人法（以下「法」という。）により、法人は財務諸表について市長の承認を得なければならないが、その際、市長は評価委員会の意見を聞くこととされている（法第34条第3項）。

また、同法により、翌年度に繰り越す利益処分についても、市長の承認を得ることとされており、その際、市長は評価委員会の意見を聞くこととされている（法第40条第5項）。

- ・地方独立行政法人京都市産業技術研究所（以下「産技研」という。）が、「資料5」に基づき説明を行った。

- ・以下、各委員の質問・意見など （○：委員，◎：産技研，●：事務局 と表記）

○： 利益剰余金の全額を目的積立金とするとのことであるが、減価償却の繰延により発生した利益について、目的積立金の取崩しにより取得した固定資産の減価償却費も含まれているのか。

◎： 減価償却の繰延べにより発生した利益は、受託研究で取得した固定資

産のものであり、目的積立金の取崩しにより取得した固定資産の減価償却費は含まれていない。

- ： 資料1財務諸表の13ページに、資産見返負債に関する記載がある。「資産見返補助金」と「資産見返物品受贈額」以外に、まだ7000万円ほどあるが、これは何か。
- ◎： 資料1の1ページ目の貸借対照表の右側、負債の部にある「資産見返運営費交付金」である。
- ： 資産見返運営費交付金について、資料1の13ページ目にある資産見返り補助金の明細のような内訳の明細はあるか。
- ◎： 本日の資料にはない。
- ： 受託等収益が増加しているが、単年度だけの見込みか。これだけ受託事業が増えると、人員の手当てが必要だと思う。今後はどのように考えているか。
- ◎： 受託等収益の増加分については、国プロジェクト等の受託である。3年～4年という期間で受託しているので、数年間は毎年度収入が入ってくる。これに伴う作業量の増加に対しては、受託収入の中から、研究員を柔軟な形で採用し、対処している。
- ： 資料5の1ページにある投資有価証券が計上されているが今回初めて計上されたものか。また、寄付の受入れに上限はあるのか。
- ◎： 株式譲渡分は今回初めて計上したものである。寄付金の受取りに上限はなく、収入の確保という面でも、これからも必要と認識している。
- ： 財務諸表について、評価委員会として適切と認める、という意見とさせていただく。

## (2) 平成28年度の業務実績に関する評価について

### ・委員長の説明

地方独立行政法人法では、法人は、各年度の業務実績について、評価委員会の評価を受けなければならないと定められている（法第28条第1項）。法人からの報告を受けて、本日は、評価委員会として、評価を確定させる。

### ・産技研から、資料7～8に基づき説明を行った。

・以下、各委員の質問・意見など

○： 2 ページ目の（3）に、「技術の習得が雇用に結び付くような機会を提供した。」と記載されているが、機会を提供した結果どうなったのか、その成果や結果を記載した方がよい。

イの共同研究等の目標達成度や利用満足度については、前年度を下回っているが、これについてどのように考えているか。

◎： 修了生に対する雇用に関係する取組については、展示会の出展を支援したり、百貨店との連携事業などを通じて、まず第1歩踏み出したような状態である。一定の売上げにはつながっているが、修了生の自立に向けた支援に関しては、第2期での課題になってくると考えている。

共同研究の実施にあたっての評価が下がったことに対する認識であるが、共同研究を継続する中で、進展がとどまったという要因があるのではないかと考えている。

◎： 1つめの御指摘であるが、修了生の作品展について、それぞれの作者がプレゼンし、業界の方に見ていただくという場を設けて、雇用に関係する例はあるが、まだ少ない。知恵産業融合センターを含め、連携して取り組んでいく。

○： すぐに成果が出るとは限らないということは承知しているが、機会を提供したことだけで満足しているように見える。機会の提供で終わらずに、どのように成果につなげていくのか、今後は、取組が見えるように記載してほしい。

○： 戦略的な研究開発の中の、鷹山保存会のお雛子の鉦については、どのような成果が得られたのか。

◎： 材料の成分分析に協力し、当時と同じようなものを復元新調することができた。

○： 全ての数値目標を達成しており、皆さんの頑張りが伝わる。研究所内は活発になっているか。従業員満足度調査というものがあるが、これを継続的に行っていくと、状況がわかってくる。産技研では、職員に対する満足度調査を実施しているか。

◎： 内部での従業員満足度調査は実施していないが、職員の人事評価などにおいて、個別のヒアリングという形で、年に数回行っている。

- ： すぐに実施すべきというものではないが、組織の体質改善にもつながるので、来年度以降でも実施を検討されてもよいのでは。
  
- ： 共同研究の達成度について、研究者であった立場から、目的達成度が80%というのは非常に高い数値であると思う。研究は開始してしばらくは成果が出るが、続けているうちに壁に当たる。そういった状態のものが多かったので、満足度や目標達成度が下がったということは理解できる。数字の上がり下がりには仕方ないと思う。

研究戦略リーダーやフェローが積極的に提案されていると思うが、そういったところで成果があれば教えてほしい。言えないものもあるかと思うが、もしあれば、次の柱になりそうなテーマがあれば教えてほしい。
  
- ◎： フェローの活用という点では、新町地蔵保存会からの依頼で行った重要文化財木造地蔵菩薩坐像の復元については、地域の地蔵盆を継続できると地元から感謝の声をいただいている。3Dプリンタで等身大の坐像を出力、樹脂素材でレプリカ像を作製し、昔と同じ技法で漆を塗った。京都国立博物館で展示され、テレビでも取り上げられた。

また、低熱膨張インバー合金電鋳プロセスの関係では、これまでは市外企業との共同研究であったが、現在、市内企業との共同研究も行っている。
  
- ◎： 窯業系チームでセラミックの研究を行っており、放熱の良いセラミックを実用化できるかもしれない。また、ナノ粒子を扱っている研究では、デバイスの接合に関して実用化できそうなものがある。先端研究では、まだ基礎研究の段階ではあるが、芽が出てきている。
  
- ： 研究レポートをみていると、かなりレベルが高い。

公設試験機関の枠組みでは地元での活動となるが、職員のため、地域のために、国際学会での発表もしてはどうか。
  
- ◎： 国際学会でも発表を行っており、昨年度は5テーマについて海外で発表を行った。
  
- ： それと、海外に短期留学するというのもよいと思う。
  
- ◎： 現在、職員提案も待って、財源も確保しているところである。
  
- ： 資料の6 小項目評価結果を確定したい。

満足度が前年より下がっているところはあるが、高水準を保っている。

25項目、すべてA評価となっている。このままでもよいが、必要であれば、S評価にすることもできる。S評価にすべき項目はあるか。ちなみに、昨年は、セルロースナノファイバーの研究が優れているということで、「戦略的な研究開発の推進」をS評価としている。ご意見あれば頂戴したい。

- ： 良い成果を出している項目が多いが、中でも戦略的な研究開発については、お酒の研究なども頑張っているので、S評価にしてはどうか。
- ： 若干気になるのは、「研究成果の普及と技術移転」のところである。セルロースナノファイバーの研究は良くやっているが、もう少し加速できないものかと思う。
- ： セルロースナノファイバーについては、製紙業界では量産化が進んでいると聞いている。  
実際に生産を始めているなど情報はるか。
- ◎： セルロースナノファイバーについては、産技研は、京都大学と古くから共同研究を行っているが、現在、服部商店や第一工業製薬が、材料の提供の観点から実用化に向けて活動している。製品への活用については、環境省事業などにより行っているが、まだ公表できる段階には至っていない。
- ： 「研究成果の普及と技術移転」については、A評価でよいが、Aマイナスくらいであるという認識を持って、もう少し頑張っていたきたい。
- ： 評価Aで構わないが、気になる点がある。  
「情報発信・情報収集の強化」のところである。産技研は、何のために情報発信をするのか。幅広く広報を行う必要があるのかないのか。広く活動を知ってもらいたいのであれば、地下鉄やバスに広報を出すのもよい。何のために広報するのか、目的ややり方をもう少し深掘りして欲しい。
- ： 小項目の評価については、次のように提案する。  
「戦略的な研究開発の推進」については、さらに頑張っていたきたいという応援の意味も込めて、S評価としたい。  
技術移転、情報発信について、実質的にAマイナスという認識を持っていただきたいということであるが、他の項目も含めすべてA評価とし

たい。

- ： 大項目については、すべて評価4でよろしいか。評価5に値するものがあるかどうかという点については、もう少しSがないと難しいと考えているがいかがか。

～ 異議なし ～

- ： では、すべて評価4とする。全体評価については、コメントで表現することとなるが、「中期計画の実現に向けて、計画どおり進捗している」ということとしたい。

他に、特筆すべきことがあれば、御意見いただきたい。先ほどから指摘いただいていること以外にあればお願いしたい。

- ： S評価の戦略的な研究開発については、「顕著な進展がみられる」と記載してはいかがか。

### (3) 中期目標の期間終了時の検討及び措置（案）について

- ・事務局から資料10により説明

- ： 当然ながら継続させる必要がある。

～ 異議なし ～

### (4) 第2期中期目標（案）について

- ・事務局から資料11により説明

- ： 1ページ目について、「一方」というつなぎ方に違和感がある。「しかしながら」の方がすわりがよいのではないか。

また、「ビッグデータ」については、産技研の事業に合うのかどうか。例えば、VRの方がよいのか、ご意見いただきたい。

- ： ビッグデータかVRかどちらがいいのかはわからないが、「生産性向上」というのは、狭すぎる。新産業の創出などにつなげていくものではないか。

- ： ビッグデータは、販売という点では大事である。

- ： 3 ページ目「生産性向上」と繰り返し出てくる。1 ページ目と同じ表現をすべきである。例えば、「生産性向上等」として幅を持たせるべきではないか。
- ： タイトルに「第2期」と入れてはどうか。取組期間についても、「(平成30年度～平成33年度)」と入れた方が分かりやすい。
- ： 確かにどこにも出てこない。事務的に確認する。
- ： キャッチコピーに「世界初を創造」としている一方で、取組の見出しは「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」となっており、レベル感が合っていないのでは。また、6本柱を連携させた取組の充実については、研究開発をトップに持ってきてもよいのではないか。
- ： 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」は、法で決まっている。また、産技研の取組について、研究開発について評価いただいているのは大変ありがたいが、これまでからの取組、下支えの機能ということもあるので、そういった点も踏まえて考える必要がある。

#### (5) 今後のスケジュールについて

- ・事務局から説明

### 【3 閉会】